令和２年度　学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判　定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）
1	地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	①ふるさと石川の食・農・環境について関心を持ち、理解を深めるための講演会、研究発表会等を実施する。	全職員（総務） 各年次 各コース 各研究会	【成果指標】 ふるさと石川の食・農・環境について関心が高まっている。	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒の割合は A　９０％以上 B　７０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	C	いしかわの食・農・環境について関心が高まった生徒が ５１％	今年度は、石川の書・農・環境について関心を高める目標としたが、新型コロナウイルス感染防止のため、関連する講演会等を実施することができなく、各専門分野の課題研究発表会、講習会の実施にとどまった。そのため、生徒の関心を高めるには、不十分であった。次年度は、感染防止対策をしっかりと行ったうえで、産業探究、課題研究、学校行事の中で、講演会や発表会をできる限り設定し、いしかわの食・農・環境についての関心を高めていきたい。
		②校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A　９０％以上 B　７０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	B	「しっかり取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」と答えた生徒の割合は ７７％	「しっかり取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」と回答した生徒は77%で中間期より6%低下したが、昨年より4%上昇しB判定を維持できた。学年別にみると３年生が82%と高く中間期の値を維持し、１．２年生は低下しており、例年の学年が上がるにつれて低下する状況とは違う結果となった。環境美化という公共心公徳心を問われる行動が３年生に定着したことは大変大きな成果と考える。１．２年生が同じ行動をとることができるよう、今後も「自分たちの学習環境は自分たちで整備する」という意識をもち、公共スペースの使用マナーや他を思いやる気持ちを大切にした環境美化意識を高める活動を、全教職員で根気強く取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・コロナ禍のなか、先生方は本当によく頑張っていることに感謝します。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・今年度のコロナ禍の中での経験を活かし、今年度中止・縮小した行事等を工夫しして実施していく。

令和２年度　学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

2	学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	①	朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢を身につけると共に、基礎学力向上が実感できるようになる。	**教務課** 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	翠星タイムを通して、基礎学力が向上したと思う生徒が A　９０％以上 B　７０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	B	よく身に付いた36.7% ある程度付いた49.0% 身についた合計85.7%	朝学習（翠星タイム）によって、基礎学力を身につけることができたかという問いに対し、「よく身に付いた」及び「ある程度身に付いた」と答えた生徒の割合が、7割を超えＢ判定となった。判定は、昨年度に引き続き同じだが、数値的には昨年度の75.0%から85.7%と大きく改善された。今後もテキスト等を活用し、基礎学力の定着と学力の向上に向けた指導を継続し行くとともに、「身に付かなかった」と回答した生徒がに対するきめ細かな指導を充実させていく。
		②	研究授業や互見授業を通して、授業における工夫・改善、効果的なＩＣＴの導入方法などを知ることで、授業改善に積極的に取り組む。	**教務課** 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と感じている生徒が A　９０％以上 B　７０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	B	分かりやすい授業が 8割以上38.1% 6割以上41.8% 合計79.9%	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、昨年度63%に対して、今年度は79.9%であった。大幅に、改善を見た。その要因としては、5月までの休校を取り戻すために、学校行事をほとんどやめて授業に充てたため、例年に比べて授業時数がしっかりと確保されたためではないかと考える。さらに、別の調査でICTを用いた授業に工夫がみられるものに88.0%の回答があるなど、教員の授業改善と工夫があったとも考えられる。今後とも、授業研究週間や公開授業等を積極的に活用し授業の改善と工夫を進めていく。
		③	３年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、明確な進路目標を持ち、その実現のための意欲が旺盛な生徒を育成する。	**進路指導課** 各年次 各学科	【成果指標】 就職や進学において、生徒の進路実現を図る。	各学年に応じて、明確に進路目標を掲げた生徒、進路実現を達成した生徒が A　１００％である B　９７．５％以上１００％未満である C　９５％以上９７．５％未満である D　９５％未満である	B	１年生９８．７％ ２年生９７．３％ ３年生９６．２％ 全体で９７．５％	１年生９８．７％，２年生９７．３％，３年生９６．２％で，全体で９７．５％である。今年度は新型コロナウィルス感染症拡大に伴い，就職求人数が大きく減った業種があり，その傾向は来年度更に顕著になることが予想される。本校にとって，特に食品関連の分野においては，個別での求人開拓を模索するなど対応が迫られることになると思われる。また，近年増加傾向である国公立大学を含めた４年制大学への進学希望者への対応についても，学校全体の意識改革も必要である。

学校関係者評価委員会の評価	・資格は自信につながる。資格取得の促進をお願いしたい。 ・進路の流れをもっと保護者に理解してもらえる取組が必要。 ・コロナの状況下で生徒に寄り添い、子供の思いを受け止めて就職指導していただきたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・資格取得は、その有効性を含めて、生徒に周知徹底していくようにする。 ・今年度のコロナ禍の中での経験を活かし、次年度の教育活動に生かしていきたい。

令和２年度　学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 3

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判　定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）
３	社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	①生徒が自発的に挨拶を行うよう、全職員が始業・終業時の挨拶を統一して指導し、登校指導でも指導する。	**生徒指導課** 全教職員 各年次	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C	自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒が ６８％	アンケートの結果によると　C判定となっているが、授業の始業・終業の挨拶は全職員で統一した指導の成果は出てきていると感じる。また、継続的に登校時に声掛けを行うことで挨拶を返す生徒も増えてきた。コロナ禍で大きな声を出すことは自粛を促しながらも引き続き積極的な挨拶の姿勢を築けるように指導していきたい。
		②基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	**生徒指導課** 全教職員 各年次	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につき、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	B	基本的な生活習慣が身に付いてと答えた生徒が ８４％	今年度は、コロナ禍の影響で前期は「無遅刻マナー月間」が設定できず遅刻指導を強化することができなかった。遅刻数も昨年に比べると増加傾向にあった。後期には「無遅刻マナー月間」を設定して指導を行ったが昨年より減らすことはできなかった。内訳は、不登校傾向・常習的な生徒が数人いたため延べ数にすると多くなっており、全体の７割以上を占めている。来年度から特に常習者への指導を行っていく必要がある。
		③集会・ＨＲなどにおいて「あり方・生き方」についての学習に取り組み、他者への敬愛と協力を尊重する態度を育てる。	**生徒指導課** 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないとの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A　３％未満 B　３％以上５％未満 C　５％以上７％未満 D　７％以上	B	どのような理由があっても、いじめは絶対に許されないとの質問に「あてはまらない」と答えた生徒が ４．６％	2月に行ったアンケート結果によるといじめは絶対に許されなとの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合は4.6%とB判定となった。他者を敬愛する態度や協力することの必要性を全生徒に持たせることは難しいが特活課、担任団と協力しながら啓発して今後も指導していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	**・遅刻が多いことが目立っている。** **・挨拶はコミュニケーション能力の基本である。**
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	**・遅刻は、その理由に応じて適切に対応し、減らしていきたい。** **・挨拶や規範意識は、生徒・教員が共通理解を持って、指導・実践していく。**

令和２年度　学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

4	タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	①	ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	**特活課** 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	B	部や研究会に積極的に参加が ７２％	生徒向けアンケート結果によると「積極的に取り組んでいる」と回答した生徒37.6%「ある程度積極的に取り組んでいる」と回答した生徒34.3%、併せて71.9%の数値であった。新型コロナウイルスのため、4・5月は休校、6月の部活動登録後、感染予防をしながらの部活動であったため、満足度は低くなると思われたが、コロナ下でも安定した数値となったので安堵している。With　コロナの状況ではあるが今後も継続して活性化に取り組みたい。
		②	農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	**農業クラブ** 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門の分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が、 A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	C	専門の分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合は、 ５９％	農業クラブ活動への参加を通じて専門の分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合は58%でC評価となった。このような結果になった原因として、コロナ禍で農業クラブ全国大会が中止になったことが関係しているのではないかと思われる。大会がない中でも前年度より大きく落ち込まなかったのは、今年度から新たに全校生徒が農業クラブ活動に意欲的に取り組めるように普及活動を行ってきたためだと思われる。来年度も継続して行うとともに、行事や分野の授業に農業クラブ活動を多く取り入れる工夫や、農業クラブに対する教員の理解を高める必要がある。
		③	統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A　７５％以上 B　６０％以上７５％未満 C　５０％以上６０％未満 D　５０％未満	B	ガイドライン45時間を下回る職員の割合は、 ７１％	昨年度66%から5%増加した。今年度は、本校独自の定時退校日を１日増やし、月２日に設定したが、臨時休校明けの６月～１１月までは、コロナウイルス感染防止対策を講じて、教育活動を実施したことから、定時退校日の意識が浸透せず、超過勤務が多かった。１２月以降は、業務も精選され、超過勤務が減少した。来年度は、働き方改革の研修の実施や業務の平準化を組織内で意識させるとともに定時退校日の取組を徹底し、超過勤務の縮減を図っていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	**翠星高校の頑張りが素晴らしくて、新聞記事を見るのが楽しみ。**
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	**・農業クラブ活動を充実させ、学校全体が農業の専門分野に対する学習意欲や進路に対する意識を高める。**